

令和4年度(2022年度) 自己評価結果公表シート

学校法人清明学園

幼保連携型認定こども園おかだまのもり

1. 本園の教育・保育目標

・心身ともに健やかでよく遊ぶこども	・自分でよく考えて、意欲的に行動するこども
・思いやりのある優しく温かな心を持つこども	・気持ちの良いあいさつができるこども

2. 今年度の重点目標

<p>◇子ども自らが意欲をもって考え選択し、試行錯誤を繰り返しながら五感を震わせ、夢中になって遊び込むことが保証される環境を心掛ける。子どものもっている力をとことん信じ、たくさんの実体験を通して、『未来を生き抜く力』の土台を築けるよう、子ども1人ひとりをしっかりと捉え、適切なサポートをすることで、より豊かに逞しく、健やかに育つよう努める。</p> <p>◇【見守る】ことを改めて考え見直し、子ども1人ひとりに寄り添い、愛情や信頼関係の構築に尽力する。保育教諭自身も真剣に悩み・考え楽しむなどの姿を子どもたちにも見せることが、子どもの育ちにつながると思え、自信をもって意欲的・主体的に取り組む。</p> <p>◇子どもが主体性をもった暮らしの積み重ね・続きとしての行事であることを念頭に、必要な変化を恐れず、変える勇気と変えない根拠を明白にして保育を進めていく。</p> <p>◇子どもの育ちをより具体的に捉え、可視化して保護者に伝えたり共有したりすることを大切に、保護者との信頼関係を深めながら、子どもの成長を共に見守り・励まし・喜び合える【共育】そして、丁寧で心温まる保育に努める。</p>

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
子どもへの対応 ～子どもの心に寄り添い、成長を見守り・見取る保育の在り方～	保育教諭自身も真剣に楽しみ・考えるなどの姿勢を子どもたちに見せながら、子どもの自主性や主体性を大事にした保育を実践したが、遊びの充実や発展していくための保育室内環境の工夫が足りなかった。 また、乳幼児部が互いの暮らしや大事にしていることを改めて知るため、園内研究を通して話し合い、課題について考え、積極的に意見を交わしたり、研修や環境構成を学んだりしつつ、自然な異年齢の関わりも大切にしていきながら、子どもの意欲・気付き・創造性などを育む見守りや援助、そしてその育ちを捉えることができたと思える。 保育の質向上の点においては、保育教諭のスキルアップが重要な要素であることを再認識し、再度一致団結しながらの底上げを課題としたい。
保護者への対応 ～保育方針の保護者理解を深める～	コロナ禍、保護者の来園機会をどうやって増やせるかを考えると併せ、ポートフォリオ・クラス・学年だより・FB・電話なども活用して子どもの育ちを伝えることを大事にした。1人ひとりの育ちを具体的に見取りそれを伝えて共有することで、理解や安心感も得られたと思われる。
主体性をもった暮らしの積み重ね ～幼児部行事の取り組み・変化～	日々の暮らしの大切さを改めて見直し、会議や研修の場でも、互いの思いや考えを伝え合い、【子どもの育ち】を保障できるよう、共有して取り組むことを、大切にしてきた。行事、もりんぴっくやもりの暮らしについても、保護者の反応も良く、理解が進んだと思える。今後も本質を見極める視点を持ち、保育に尽力していきたい。

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>保育教諭だけではなく、職員1人ひとりの保育・仕事に対する意識変化が促され、自ら動き、疑問や考えを伝え合い、当たり前と思っていたことやそれを行う意味を改めて考えたり見直したりする姿勢が強くなった。環境を変えたことで見られた、子どもたちの日々変化する成長を目の当たりにしたことで、保育教諭の心も動き、今後更に期待もてる。職員1人ひとりがもち合わせている力を十分に発揮させたり向上させたりすることができなかったことは、園長としての責任を痛感している。</p> <p>今後も子どもの育ちをしっかりと見取り、保護者と【共育】していくことを大切に、保育が充実し育ちを保障できる、温かく豊かな保育環境を目指していきたい。</p>
--